

令和6年3月8日

作成者：総務課行財政改革推進係

令和5年度 市川三郷町行財政改革推進計画策定に伴う住民説明会

－ 会議録 －

- 1 日 時 令和6年1月17日（水）午後7時00分から午後9時20分まで
- 2 場 所 市川三郷町六郷町民会館 1階 ホール
- 3 出席者 【参加人数】47人
- 【町役場】町長 遠藤 浩
副町長 依田誠二
教育長 渡井 渡
- | | | | |
|------------|------|---------|------|
| 総務課長 | 一瀬 浩 | 政策推進課長 | 井上靖彦 |
| 防災課長 | 林 茂一 | 財政課長 | 森川規彦 |
| 町民課長 | 望月和仁 | 税務課長 | 芦沢 正 |
| いきいき健康課長代理 | 赤松宏直 | 子育て支援課長 | 渡邊浩志 |
| 福祉課長 | 海沼良明 | 介護課長 | 櫻井 茂 |
| 農林課長 | 丸山章仁 | 商工観光課長 | 望月順二 |
| 生活環境課長 | 丹澤宏友 | 土木整備課長 | 立川 潔 |
| まちづくり推進課長 | 渡辺 潤 | 会計管理者 | 立川陽子 |
| 三珠支所長代理 | 丹沢真樹 | 六郷支所長 | 木村竹実 |
| 議会事務局 | 保坂秀樹 | 教育総務課長 | 相川由美 |
| 生涯学習課長 | 塩沢正也 | | |
- 【事務局】広聴広報係長 高柳咲子 総務人事係長 石原一彦
情報化推進係長 相川伸也 財政係長 深澤正弘
行財政改革推進係 伊藤昌也 外
- 4 会議内容 (1) 開会
(2) 町長あいさつ
(3) 計画概要説明
(4) 質疑
(5) 閉会

5 会議経過

(1) 開会 午後7時00分

(2) 町長あいさつ

町長のあいさつの内容は、次のとおり。

本日は市川三郷町行財政改革推進計画住民説明会を開催いたしましたところ大勢の皆さまにご参加いただき心より感謝申し上げます。

私が町長就任以来、行政改革、財政改革を強力に進めておりましたが、今年度に入り行財政改革推進のための部署を設置し更に強化し、その推進体制が整ったことから、9月19日に「財政非常事態宣言」を発出いたしました。財政状況の認識を共有し、ピンチをチャンスに変える反転攻勢の転換点としたものです。この宣言は私たちが想像していた以上に大きなインパクトがあり、10月の住民説明会では今まで政治への関心が高くないと思われた若い方の参加が多く見受けられ、積極的に未来へ繋がるような発言をしていました。

宣言発出以来、町内外の多くの皆さま方から応援の声をいただいております。具体的にはこれまでに、ふるさと納税へのアイデアや支援、企業版ふるさと納税でのご寄付、ネーミングライツ契約、地域活性化策へのアイデアや取り組みなど。また、現在、いくつかの個人、団体と地域活性化策について定期的な会議等進捗してございます。

この度、役場内行財政改革推進組織、外部有識者からなる推進委員会、住民の皆様から頂いたパブリックコメント、12月町議会での議論を踏まえて「行財政改革推進計画」を策定することができました。

この計画では、本町が取り組むべき行財政改革の方向性として4つの基本方針を掲げた上で、計画期間である令和7年度までに取り組む具体的な内容30項目をアクションプランとして示させていただきました。

全ての施策の総点検、適正化を図り、その結果生じた縮減経費をもとに将来への投資を積極的に展開することで、持続可能な市川三郷町を目指すものであり、現時点でみんなが決めた最高位の計画だと思っています。

これからが本番というべき行財政改革の推進には、町民の皆さまのご理解、ご協力が不可欠であります。

財政非常事態宣言以降申し上げているとおり、一刻も早い推進は明るい未来へ近づく第一歩となりますので、引き続き皆様のご協力を願います。

(3) 計画概要説明

資料に基づいて総務課長より説明。

(4) 質疑

参加者からの質疑は次のとおり。

－ 発言者 －	－ 発言内容等 －
参加者	岩間に住んでいる者ですが、神明の花火の自走化とかありますけれども、自走化とは何でしょうか。僕ら旧六郷町民としては大変申し訳ありませんが、神明の花火、帰るときに非常に迷惑なんですよ。それでいて職員がけっこう出てますよね。前日の準備とか、あれは何なんですか。教えていただけますか。
商工観光課長	はい、ありがとうございます。商工観光課長を務めさせていただいております、望月順二と申します。よろしくお願いいたします。まず自走化という部分で説明させていただきたいと思いますが、現在商工観光課で神明の花火大会の事務局を持ちまして、実行委員会形式で神明の花火大会を開催をしています。これは町が関わっておりますので、町からの運営に関わる費用とかが出ているわけなんですけど、今考えているところは、DMO。例えばですね、DMO という観光まちづくり法人のような別団体を作って、そこで花火大会を実施していただく。その団体の方で経費等を集めるなかで運営をしていく。そして町から手を離す。町がその団体に事業を渡し、町から出す経費を減らしていきたいと考えています。その団体が、個別に大会を運営していくという形を考えています。
参加者	自走化はいいかもしれないですが、それって例えば団体が、赤字になったら、それでやめちゃっていいんですよね。そういう考えで良いんですよね。違いますか。
商工観光課長	現在は、これからどんな形、どんな団体を作っていけば、持続的に神明の花火大会が町から離れた状態で、開催できていくのかということは、これから検討もしなければならぬところなんですけど、そういう赤字にならないように、持続ができるような団体の設立を考えております。
参加者	考えてばかりだったら何もできないですよ、はっきり言って。要は、はっきり言って市川大門の頃のものじゃないですか。例えば、僕らは見に行くにしてもお金がかかる。甲府方面から仕事などで帰るときは、3倍以上かかる。それで町が潤っているか、そうは思えない。そこがちょっ

と疑問なんですよ。

町長 はい、ありがとうございます。神明の花火大会は市川三郷町を代表するイベントということで、町内外、県外も含めてですね、非常に好評の中で行ってございます。今回第 35 回神明の花火大会から県内経済への波及効果というものを検証いたしました。神明の花火大会への協賛寄付金が約 4,500 万円、そして有料観覧席が約 4,500 万円、約 1 億円規模の予算になります。そしてその 1 億円ですね、県内への経済効果が 24 億 4,000 万円という集計があります。そして今回から町内経済への波及をしていこうということで、こちら六郷地区の印章組合にもご協力をいただいて、花火を観覧していただいた方に、アンケートを実施し、答えていただいた方に特産品をプレゼントをするというイベントも実施いたしました。そういったことで町内の経済波及効果、それから県内への経済波及効果があります。それを自走化するというのは、先ほど課長から答弁をさせていただきましたけれども、法人格を持ってしっかり経営をしていくということでございます。第 35 回の収支決算は、今の段階で 1,000 万円ほどの黒字の見込みです。そういったことで今後、この地域の活性化のために、このイベントを育てていくということです。同時にですね、信玄公祭りとのコラボレーションを実施してございます。市川三郷町だけではなく、甲府でも神明の花火として運営に関わっていただく。そして今年はですね、秋にオマーンという国、中東の工芸の国、石油産出国ですけれども、ここでも神明の花火を上げる計画をしているところです。地域発展のためにもイベントを実施し、そしてそれが地域の経済を盛り立てる。そういったことに今取り組んでいる理解をいただければと思います。

参加者 すみません。地域への波及といっても、県内波及効果はそれはわかりません。各県からテレビなんか来るとは思いますけれども、それが町内に波及しているか、今 1,000 万の黒字ということしかない。また、先ほど申しましたけれども、準備や翌日の片付け、それに関しては町の職員が朝は出るんですけども、朝 5 時から行ってサービスでやっている、という話も聞いております。その辺はどのようにお考えでいるのでしょうか。

町長 はい、ありがとうございます。役場職員に出労いただいているということでございますが、これは役場職員というのは、単なるサラリーマンで

はございません。地域発展のために仕事をしているということでございまして、そういう中で取り組んでいることとさせていただきます。そういったことをしていきながら地域発展につながっております。もちろん県内の経済効果ということも申し上げましたけれども、県内のみならず町内にも波及効果があります。単なる一時的な経済効果ではないことにご理解いただきたいと思います。

参加者 こんばんは。鴨狩津向の者です。前回ですね、いろいろ意見をお聞きしました。それで、町からパブリックコメントという形で意見を聞いてもらい、それで私もたくさんいろいろお伝えしたいことはあるんですが、つむぎの湯について、18項目の内容を書かせていただきました。その中で、2項目ほど、駐車場のラインが消えてわからないとか、街灯がつかなくて夜あぶないとか、そういったことを書いたところ、早急に改善していただきありがとうございます。町がこのような状況で、いろんな問題があるのですが、改革のスピードが必要で、まだ始まったばかりですが、定期的にどうなってるのか広報などに掲示し、発信していただいて、住民の意見をいただく。そういった形で進めていただければありがたいです。よろしく願いいたします。以上です。

総務課長 ありがとうございます。早速いただいたご意見に対応できたということでありがとうございます。お話いただいた通り、これからがスタートですので、町のホームページや広報等で様々な情報発信をする中で、皆様と共有していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

参加者 宮原の者です。行財政改革の素案に、今年の11月に六郷ですね、唯一というわけではないですけども、つむぎの湯について、廃止もしくは民間委託ということが載っていたわけですね。それを阻止するために、今年の12月にですね、つむぎの湯および六郷地区の区長さん、および組長さんをお願いしまして、回覧等で署名を行いました。全体的には1700名の方に署名をいただきまして、ありがとうございます。今年の12月の26日と28日に山日新聞にも載りましたのでご存知かと思っておりますけども、27日ですか、町長に署名録を提出いたしました。その節の町長のコメントとして、ご意見としてはお伺いします、という簡単なコメントであったんですけども、確かに赤字を出してる施設が統合、統合もしくは廃止ということはわかります。その地区の重要な施設は何か残して欲しい

いです。それから、やはり市川三郷は、市川地区が何か全体的なパーセントからいうと多いわけですよ。三珠地区、六郷地区はどうしても置き去りになってる。市川のみでの政策が非常に多いということは、六郷地区の住民は、3町合併しなかった方が良かったんじゃないかっていう方も、そういう考えの方が非常に多いです。そういったことで、まだいろいろこの内容に関しては10も20も言いたいことありますけど、とりあえず一回ここで締めます。

参加者 はい、上手方在住の者です。よろしく申し上げます。3つ質問をさせていただきます。1つは目標値についてですね、改革推進計画の目標値について。2つ目が委員会について。3つ目が進捗管理のPDCAについてです。まず1つ目の目標値なんですけれども、私10月の住民説明会の中でもその話をさせていただきましたけれども、ホームページを見ていくとですね、この行財政改革推進計画の素案の時点では、経常収支比率を95%以下に減少させるっていうコメントが冒頭のところに記載されていたんですけれども、今回出たバージョンの推進計画の中からそのコメントはなくなっていました。続けてそのホームページの中には、委員会の議事録が載ってまして、それを見させていただいたんですけれども、削除した方がいいとかそういうコメントはなく、95%以外にプラスアルファ何か数字を入れた方が良くはないかとか、そういうコメントがありました。なぜなくなってしまったのかっていうところを、私は入口が、経常収支比率が98.2%、これじゃ困るということであれば、出口はその数字に基づいて目標値を決めるべきだというふうに考えます。何でもそうですけど、目標のない仕事はないと思ってます。まず1つ目はこの目標値についてですね、教えていただきたいです。2つ目の委員会ですけれども、これ行財政改革推進委員会というのは、外部機関が入って、それは理解できるんですけども、日程の中に特別委員会っていうのを開いてると思うんですけど、これは組織体制図にない委員会なので、これは何をやってるのか、議事録もそれにはないので、何をやってるのかっていうのを教えていただきたい。3つ目の進捗管理のPDCAなんですけれども、これ実施の際はどのぐらいのスパンで行うのか教えていただきたいです。これはあまりに長いと、方向性がおかしかったりしたときの修正するのに非常に時間もかかるし、いろいろ検討した時間にロスが生まれるので、この辺はどれぐらいのスパンで考えているのかというところを教えていただきたいです。以上の3つとなります。よろしく申し上げます。

総務課長

ありがとうございます。3つのご質問をいただきましたので、順番にお答えさせていただきます。まず1つ目の目標値の関係でございますが、おっしゃる通り、入口が経常収支比率 98.1、現在の 98.2 までなっていますが、それからそれを 95%ぐらいにする目標は変わっておりません。それは計画のアクションプランの中に記載をさせていただいておりますので、ご理解いただきたいと思っております。それから特別委員会ですが、それは議会で開催していただいている内容です。推進委員会とは別のものになります。それから PDCA の関係ですけれども、おっしゃる通りで、長いスパンでダラダラやるということは考えておりませんので、まずは令和 7 年度末までに向けて、95%以下に経常収支比率をしましょうということでございますので、全ての項目について現在取り組みをさせていただいているものは、令和 6 年、令和 7 年度中に取り組めるものについては、具体的な数値を出させていただいておりますし、将来にわたって進めていかなければいけないものについては、中長期的な視点の中で取り組んで参ります。それらを今後も継続していくという形でご理解いただきたいと思っております。

参加者

ありがとうございました。最後に言われた PDCA の件に関しては、さっきのフローがありますよね。あのフローを回すのが、例えば 3 ヶ月に 1 回とか半年に 1 回とか四半期に 1 回とか、そういうことが聞きたかったです。ここには写ってませんが、あれだけ膨大な資料で、あれを精査するっていうのは、すごく労力もいるし、役場職員の方が大変だと思うんですけども、あれを回すっていうのは、どんなやり方をして回していくのか知りたくて質問しました。令和 7 年度末までっていうのはわかるんですけども、本当にちゃんと精査できるのかなっていうのが心配で聞きました。それと 2 番目の特別委員会については、議会っていうことであれば、議会って書いた方がいいと思っております、この中スケジュールの中には議会という言葉がないので、ちょっと紛らわしいです。経常収支比率については、今は適正化 95%を目指すと、先ほどの推進委員会の議事録の中でも、これはあくまでもスタートラインだっていうことが書かれていましたので、個人的には 95%っていうのはどうなのかなって、低い目標であるんじゃないかっていう気持ちもありますけれども、そこはある意味そこで納得するしかないかなと思っております。

総務課長

PDCA のところ、私もうまく説明できず申し訳ありません。我々としま

しても、例えば今年度は3月末までに一度、どの程度進められたか確認をし、先ほどお話がありましたように特別委員会や外部推進委員会にも報告をしながら進めていく計画をしております。四半期ごとに進捗状況等を報告しながら、今後の取り組み状況をお示しさせていただきます。今現在、各担当が工程表というのを作成しております。まだ確認をしなければいけないところもありまして、そういう作業に入るための準備が進んでいます。

参加者 基本方針が4つありますが、その1つの中にですね、「消防団組織の見直し」という項目があります。現在ですね、町の防災士会において、避難所等のことについて今検討しております。昨年ifセンターの避難所運営のマニュアルを完成させました。それに続いて、次の所を進めようとしておりますが、1月1日に石川県で大災害が発生しております。市川三郷町もこれから地震等の災害が起きた場合の対応を教えてくださいたいと思っております。石川県では非常に物資が行き届いておりません。そして今、町で管理している倉庫にどれだけの物資が入っているのか。ローリング式に物資を入れたりするというのもお金がかかります。そういったことについても、教えていただきたい。

防災課長 ありがとうございます。防災課長を務めさせていただいております、林茂一と申します。よろしく申し上げます。市川三郷防災士会の皆様には、いろいろな防災行政に対しまして、ご意見、また訓練等ご協力いただきましてありがとうございます。まさに私も防災課長として、1月1日に、妻の実家に何家族か集まっていたんですけど、みんなのスマホが鳴り始めて、なんだろうと思い、南海トラフ地震かも知れないと考えながら、テレビのニュース、またメールが入ったものを見て、石川県ということでした。山梨も震度3ということで、こちらも揺れました。その中で、もしそれが市川三郷で震度7の地震が起きたらどうなるんだろうと考え、非常に怖く思いました。今準備しているものでどのくらい対応できるかは、今おっしゃった通り、同じことを考えました。町では、黄色いA4くらいの冊子があります。これが市川三郷町地域防災計画ということで、いろいろな分野のことを細かく計画しております。実際に市川三郷町、山梨県内で大きな災害が起きておりませんので、それで対応できるのかと言われると、大丈夫だと言い切れません。今後、過去に起きました東日本大震災、現在被災しております能登半島地震を参考に、防災士会の皆様、またそういう皆様と、そういう対応はできるのか。ま

た、その対応の中でも、自助で対応する、共助で対応する、公助で対応する、いろんな部分があると思いますので、その辺を含めて今後検討を進めていきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

参加者 今日いただいた資料で、基本方針1、2、3、4とあるんですが、図書館の六郷分館や旧町役場庁舎の統合とか、まだ具体的に数字が出ていないと思うのですが、今後どうなるのか少しは聞けるのではないかと考えて来ましたが、ここにある資料だけで、何をどうするかというのはこれでは全く分からない。何か具体的に動いてることとか、そういったことを話していただきたいと思えます。

総務課長 ありがとうございます。すみません、私の説明は概要ということで説明させていただきました。既に皆様にホームページ等でお知らせをさせていただいていますが、市川三郷町行財政改革推進計画という、70ページ以上にわたる個別の計画をお示しをさせていただいております。これを1つ1つ説明しますと、皆様からご意見をいただく時間がなくなってしまいますので、先ほど説明を割愛をさせていただきました。個別のものについては、ホームページ等でお示しさせていただいておりますので、ご覧いただければと思います。また今後についても、皆さまにご意見いただいている部分については、真摯に耳を傾けながら、個別に対応していきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

参加者 その資料をいただいて、確認しております。ですけれども、どういうふうに変化していくのか、何をどうやっていくのか全く見えないんですね、住民は。その辺について、先ほど申し上げましたように、広報およびホームページなり、進捗状況の共有、四半期ごととかどんな形でも結構ですが、それを定期的にわかりやすく、発信してほしいです。

総務課長 ありがとうございます。ご意見いただいた内容と同じように我々も考えておりますので、情報発信等をしっかりしながら、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

参加者 岩間の者です。今日は2点ほど質問をお願いします。方針2の中で、施設のあり方や有効活用案について、図書館等の施設を統合、庁舎を3つから本庁舎1つに統合とありまして、この地域公共交通体制の抜本的な見直しとありますけど、今ちょっとコミュニティバスが六郷から本庁

舎に何本行っているか知りませんが、例えば六郷から図書館や本庁舎に行く本数を増やすのかどうか、ということを知りたいと思います。もう1つ、行政サービスの質の向上ということで、各戸回覧等における電子化の充実ということで、ホームページやLINEによる情報発信の充実とあります。前に新聞で、組長さんがLINEで回覧板を配り、LINEがない人には紙で配っているという話を聞いたことがあります。マイナンバーカードで、コンビニでも印鑑証明も取れ、とても便利になっています。しかしそれに、対応できないっておかしいですけど、対応できない人もいます。それらの方をフォローする情報発信をしてください。先ほど総務課長がおっしゃったように、ホームページに上げてますって言ってましたけど、上げているかも分からない、それをどうやって見ればいいのか分からないという方も多いと思うんですよ。そこら辺を考慮してですね、ぜひよろしくをお願いします。

政策推進課長

政策推進課長の井上靖彦と申します。よろしくをお願いします。最初の質問になりますけれども、地域公共交通計画ということで、現在コミュニティバスが、三珠線、山保線、六郷線、そして六郷循環線の4本が走っております。コミュニティバスは、合併前後にその路線を決定しまして、19年間運行本数等は変わりましたが、旧町の引継部分が多く、市川三郷としてしっかりした地域公共交通計画というものを進めなければいけない段階にきております。今回の行財政改革において、施設の統合という部分があります。そして、人口減少、高齢化、免許の返納等がございまして、抜本的にしっかりと地域交通計画を作らないといけないということで、令和6年、来年7年にかけて、マスタープランとなる地域公共交通計画を策定して参ります。それによって、しっかりと計画を練って必要な部分であったり、この地区にはデマンド、この地区にはコミュニティバスといったような政策を積み上げていきたいと思っております。最初の質問に対する回答は以上でございます。

総務課長

はい、ありがとうございます。2つ目の質問にお答えさせていただきたいと思っております。まず、これまで様々な情報発信をさせていただくものについて、これはどういう形で発信をしていくか、どういう媒体を使って推し進めることが一番良いのかということをお聞きいただき、あまり考えず発信をしてみました。そこで今のようなお話いただいている中で、我々としても、情報を精査をしまして、情報によってはSNSで若い方をターゲットとして出すことが有効で、そういう意味ではSNSの方が良いだろう

ということや紙と並行してお知らせしなければいけない高齢者向けの対応も必要だろうというふうに思っております。その情報を精査する中で、それぞれの趣旨に合った形で SNS と紙を併用するなど、進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

参加者 2 点だけお聞きします。まず行政改革推進計画というのは、合併時に条例として採決されているのですよね。だから 18 年間行政は何をしてたんですかね。今になって、にっちもさっちもいかない状態になってこういうことを付け焼刃でやってるわけですけども、その中でまず私も計画を読みました。3 日間かかりました。その中で、職員の削減計画、3 年間でたったの 24 人しか削減計画がないのですよね。それでお隣の富士川町では、市川三郷町より 80 人から 90 人、職員が少ない形でやってるわけですよね。なぜそこまで削減できないんですか。それから、この前町長は施設がいろいろあってそこに職員が行っているから多いんだということを書いてますけれども、施設を削減すれば、富士川町と同じように 80 人 90 人削減できるんですか。あと学校の統合問題。人口が合併時より 3000 人以上が少なくなってるわけですよね。当然子供さんも児童数も少なくなっていますよね。中には生徒が 6 人、先生が 10 人もいるというところもあるらしいんですけども、そんなのもう学校じゃないですよ。ですから具体的にですね、上野と大塚の小学校を一緒にするとか、市川地区は、小学校が 3 つあるので、それを 1 つにして、最終的には小学校 1 校、中学校 1 校。そこまで削減しなければ、どうにもならないと思うんですよね。この計画上ではもう遅すぎますよ。それでこの前の時に町長は交付金があるから統合しなくても良いというようなことを言っていましたけれども、そんなことじゃないんですよね。もう生徒の教育環境にも良くないですよ。政策を立て直してやらないと、将来子供さん 5 人、10 人のところと、多くの人数でやっているところを比べると遅れをとっちゃいます。そういった計画がね、生ぬるい。職員の削減計画や小・中学校の削減計画も、町でやっていることは生ぬるい。

総務課長 ありがとうございます。2 つ質問をいただいたと思いますが、まず 1 つ目の職員の削減数が少なくて生ぬるいというご意見ですが、その職員の減というのは、会計年度任用職員の減のことだと思いますが、まずそこをお話させていただきたいと思っております。いろんなことを整理しながらお話させていただきますが、会計年度任用職員は、先ほどのような、外部の施設等に所属している職員も多くいることは事実です。それを少し

ずつ見直しをしながら進めていくということで、あくまで2年間でこれだけの人数、これ以降も継続して考えていこうということですので、ご理解いただきたいと思います。職員につきましても、退職補充を見直ししながら、採用を抑えていくということを計画的に進めております。しかし、定年延長制度も入っております、なかなかやめてくださいというようなことは言えない状況です。職員たちが勤めたいといえ、法律で守られております。とはいえ、職員の皆様のいろいろなご理解をいただく中で、10年で20人ほどを削減する予定で現在は考えております。

参加者 甘いよ。10年で20人はおかしいでしょうが。民間だったら半分だよ。

総務課長 そこをちょっと整理させてください。正職員が20人ぐらいで、会計年度任用職員というのは、我々だけではできない事業、突発的な事業の中に入らせていただいておりますけれども、そちらも合わせて減らしていくとすると、40人とか50人という人数になっていくのかと思っております。

参加者 昭和町や富士川町に勉強に行ってくださいよ。

総務課長 現在ですね、富士川町を参考に勉強させていただいておりますので、今後進めていきたいと思っております。

教育長 教育長の渡井です。先ほどはどうもありがとうございました。学校の統合についてここで話させていただきます。学校につきましては、まず本町には中規模校、小規模校が確かにありますが、今現在のどの学校でも充実した教育がなされております。ただ、これから子供たちの数がどんどん減っている状況なので、適切な規模というのはどのぐらいが良いのだろうか、対象をどのぐらいの範囲にすれば良いのだろうか、ということで、早速適正規模と適正配置の委員会を作ります。そこでよく検討する中で、方針を以って、改めてしっかりと子供たちにとって最も良い学習環境は何かということについて考えながら進めて参りたいと思っております。

参加者 適正環境ではないんですね。この先の人口っていうか、生徒の数っていうのはもう、10年前にわかってたわけですね。それでまるっきり手をつけないでいたからこんな状態になってるんです。身延町のことを

言っでは悪いけれども、身延町は10年計画で、14ぐらいだった小学校を3つにして、中学校も1つにするような計画で、そろそろもう達成できるようですよね。だから、確かに親御さんのことを考えたら、近くに小学校があった方がいいと思いますよ。しかし、これだけ少なくなってきた、1つの学校の運営となれば、何千万ってかかるわけですよ。だからそういったことを考えると、やっぱりお金がない自治体だったら、そういったものをまとめて、適正化にしていかなければならないと思っています。先ほど総務課長さんが言いましたけども、いろいろ組合とかそういったことで、削減はできないんじゃないかと思いますが、これだけ内部は潤ってて、住民に対して、こういうサービスはできませんとか、施設は削減しますって言うたら、内部がまず削減できないようなことをね、住民に押しつけられないと思いますよ。

参加者 私の人生活はね、ソフトボール人生。今はね、ゲートボールをやってます。あんまり難しい話じゃないんです簡単です。今ニードのグラウンドで、ゲートボールやってます。先日町長が出席していた六郷の駅伝があったんです。そのときに多分グラウンドを見て、分かったかどうか知らないけど、私が除草剤まいたりしてきれいにしたりしてます。町から2回ほど除草剤をもらいましたけど、あとはボランティアです。去年の秋に言って、はいはいわかりましたで終わってます。除草剤をくれとは言いませんけれど、ニードはどういった方向で残ってくれるのかそこを聞きたいです。難しくないです、話は。ニードをどういう方向でもって残してくれるのか。あるいは、どうなっちゃうのか、その辺を聞きたくて手を挙げました。よろしくお願いします。

副町長 すみません。副町長の依田と申します。御意見ありがとうございました。ニードについてですけど、昨年度からですね、体育施設については、運営方法を検討しなければならないということで、地域の運営委員会のご意見を聞きながら今後どうしていくかということで、検討させてもらいました。来年度ですね、運営の中身をいろいろ検討しながら、改善を図りながら運営方針を見直しまして、その運営状況を踏まえて、今後どうするかを検討するという形になります。グラウンドについてはですね、課長が来れていないので、細かい説明ができず申し訳ないんですけども、グラウンドの運用についても地域の方と相談をしながら、今後検討をして参ります。

参加者 ありがとうございます。ぜひグラウンドにトイレを。トイレがないんだよね。だからニードの管理人と相談して、トイレを借りるような話はしてありまして、そこが駄目になっちゃうということで、ぜひ前向きにご検討よろしくをお願いします。ありがとうございます。

参加者 先ほどの職員の数のことを質問したときに、中途半端に話が終わって、学校の問題になりましたけど、富士川町は削減できているのですよね。法的には、市川三郷町も富士川町も同じだと思うんですよ。法があるから削減ができないというお話だったんですよ。なぜ富士川町はできたのでしょうか。富士川町ができて市川三郷町ができないというのはおかしくないですか。

総務課長 はい、ありがとうございます。すみません、回答が中途半端ということでご指摘いただきましたので、引き続き回答させていただきます。富士川町さんは、ご存知の通り2つの町で合併しております。本町については、3つの町で合併しておりますので、元々のスタート時点で職員数が違うということをご理解ください。そして、我々としましても、今は、事業規模等がほぼ同じ状況になっておりますので、それに向けて一生懸命研究をしながら、あくまでもこれは令和7年のですから、これから先も合わせて再編に取り組んでいこうと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

参加者 職員組合との話はどうなってるんですか。組合ってあるんですよ多分。職員組合のお偉いさんが役場との話し合いで、あんまり削減しないような形となった噂もあるんですけど、どうなったんですか。

総務課長 はい、ありがとうございます。私が存じ上げている限りでは、そういうお話をいただいておりますので、違う話ではないかと思えます。

参加者 令和7年度末、多分8年の3月で24人ですか。ここに書いているのは。それぼっちじゃ財政は良くなるので、職員を80人削減すれば、年間4億近くは削減できると思うんですよ。そうすれば、他の施設をどうにもならないような状態にしながら、まず庁舎を市川だけに1本にするというのはちょっと無理があります。最低でも1、2人は残して高齢者をカバーしないと、どうにもならないと思うんですよ。携帯電話を使えない町民がいっぱいいますから、そういった人は、住民

票を取るとかそういったことになれば、やっぱり地元の所に行って取るしかないんですよ。ここから市川の本庁舎に行って住民票を取るなんて無理ですよ。車の運転ができない人間がそこまでというのは、かわいそうですよ。今まで50年も60年も、この町に奉仕された高齢者を切り捨てるようなことはちょっとまずいと思う。大きな建物いらないですよ。80過ぎのおばあちゃんおじいちゃんのことを考えて統合を考えないと。住民のための役場ですよ。行政っていうのはサービス業ですよ。今はもう行政がサービス業になっていない。住民に対して上から目線ですよ。

総務課長 ありがとうございます。住民に対してそのように思われることは、非常に我々としても反省しなければいけないところもあるのだろうと思います。肝に銘じて、職員全員でそういう対応がないようにやっていきたいと思います。また役場を本庁舎1つにするのか、大変重要な話だと思います。令和7年度までにそうしますということではございませんが、その辺は時間を見ながら、また今後例えば、この地域におきましても、この地域の開発等に取り組もうとしている経過がございます。いろんなところで状況が変われば、変化に対応した方策を講じて参ります。

参加者 先ほどの職員数、5年後には何人にする目標ですか。5年後で300名なんてこと言ってるんだったら、どうにもならないですよ。会計年度入れて360人ぐらい居るでしょう。それがね300人以下にならないんだったら行政怠慢ですよ。能力のある人間を残して、能力がない人間はクビにするぐらい考えてやってもらわないと、行財政改革にならない。

総務課長 ありがとうございます。厳しいご意見をいただいたということで今後活かしていきたいと思います。

参加者 正職員は10年で約20人の削減で、会計年度任用職員は自分たちだけではできない仕事をしている。会計年度任用職員はどういった仕事をされているのでしょうか。これは、施設を減らせば削減できるのですか。具体的にどういった職員を減らすのか教えてください。

総務課長 はい、ありがとうございます。現在我々の仲間としてですね、一般事務としての会計年度任用職員がおります。自分たちの仕事をうまくやりくりする中で、減らしてやっていこうということで考えております。そ

れについては、いろんなどころに働きかけをしながら、その体制も整え、話を進めております。今年の4月に向けては、20人まではいかないかもしれませんが、一般事務の方々を中心として、10数名の方たちの削減は可能になると思います。その分職員はDXを使いながら、仕事の効率化を目指して、今まで会計年度任用職員に任せていた仕事も自分たちで何とかやる、というように考えております。それぞれの施設にいる職員については、施設の見直しが進めば、その中で具体的な数字をお示しできると思っております。

参加者 ついでと言っはなんですが、午後7時すぎ、8時近くに家に帰って来る時、役場の電気が常に煌々としていてるんです。こんなに仕事ができない人がいっぱいいて良いのかと思ってるんですよ。今見ると管理職の方がいっぱいいるじゃないですか。多すぎですよ。お金がないのに。下手すれば甲府市と同じくらいの管理職の数なんだろうな、と思いつながら。特別職の人もそうだけど、申し訳ないけど、適正化とか試験登用とかいろいろ書いてありますが、本当にできるのかなと思ってるのと、定時は5時15分、遅くても6時のはずなのに、煌々と電気がついていて、なおかつ冷暖房完備のいいところで仕事してるなと思いつながら帰ってくるんですけど。何でしょうね。教えてください。

総務課長 はいありがとうございます。決してですね、無駄に仕事をしている訳ではないと私は信じておりますし、夜、それぞれ会議を持っている担当もおりますので、全員定時で終わってしまう仕事ではないと思います。とはいえ、やり方を工夫していくことが必要だと思いますので、他の町の状況を確認したりしながら、我々として今どういうことをやっていかなければならないのか、どういう仕事なのか、機械に任して、コアな仕事を効率的に推進できるのか、そういうことを職員みんなで考えなければと思っております。

参加者 そしたらですけども本庁舎に統合する、これは案ではなくてきつとするんだと思いますけど、その場合には、別にここでやるのではなくても別にいいから、本庁舎の会議室だけを使って、こちらの庁舎は使用しない、そういうことは考えないんですか。そういう、みみっちいような節約をしていくこと、どこでもやっていると思うんですが、そういうのはあまり考えてないとは思いますが。いつも仕事の休みの日、この庁舎に来ますけれども、夏は涼しくて、冬は暖かいですよ。民間ではそ

んなこと絶対してないですね。そういったことは、どうなんでしょうね。

総務課長 厳しいご指摘ありがとうございます。我々としても皆様のおっしゃることが身に染みて、職員全員でもう一度しっかり把握をする中で、何か小さなことから積み重ねていくことで、皆様に信頼していただける職員、職場になろうと考えておりますので、よろしくお願いします。

参加者 ちょっとお願いなんですけど、前にいる課長さん、旧3町から出ていると思うんですけど、自分の地元以外の町、少しでも歩いたことありますか。

総務課長 職員全員というわけにはいきませんので、私の例でお話をさせていただきますと、旧市川大門出身でございますが、三珠や六郷の会議に顔を出したり、皆様方に親しくお話ができることがあれば良いのですが、なかなか仕事柄そうはいかなくて心苦しく思います。今までも3町のいろんなところをまわって、施設を見させていただいておりますので、今後もしもそのようにやっていきたいと思っておりますし、私以外の職員もそういう思いでいると思っております。また、これを機にですね、さらにそういう気持ちになるべきだろうと思っておりますので、よろしくお願いします。

参加者 よろしく申し上げます。ぜひとも、つむぎの湯とかに行って、どのような人が来ているのか。県外からの方も結構いるんです。分かっていますよね。分からないといたら、あんたたち何してんの金だけもらって。給料もらえばそれでいいのか。そういう感じですね。

参加者 鴨狩津向の者です。今ね、意見をいろいろ聞いていると、ある意味六郷地区の不満がふつふつと出ていていると感じています。そういう私も少々不満は持っています。どういうことかという、私たちが癒しで行っているつむぎの湯がなくなるとかね、健康の増進のためにニードに行くとか、そういうふうにやはり市川地区ではなく六郷地区が、本当に希望を持って生きれるのか、若い人が住んでくれるのだろうか、すごく不安を皆さん抱えていると思うんですね。だからそういったような意見が出てくるんです。私もそのように感じています。結局、図書館が無くなる、つむぎの湯が無くなる、健康の維持ができなくなる。さて市川地区に行こうとすれば足をどうするのかという話になりますよね。やはり、そちらが優先になってきているというイメージが拭い去れないと思うんで

すね。ぜひですね、行財政改革推進計画の目的の3番目にある「全てを点検して適正化を図り、経常的経費の縮減に取り組みます。また、これにとどまらず縮減経費をもとに、将来への投資も積極的に展開する」とこう書かれているところにすごく希望を持ちます。これにとどまらずではなく、これと並行して、やはり私達のやっぱり生きる力、夢やそういうものを町政は作っていただきたいと思うんですね。それで東議員さんがですね、六郷インターの周辺の開発にどのような姿を描いているか、町長に聞いたら、官民連携で開発を進めており、製造業物流などの企業が候補になっている。六郷地区の人口対策を最重要課題と捉え、地域の活性化を図っていくと答えて下さっています。私はそういうことに希望を持ちます。あと企業の誘致の進み具合という所でも、最短でも4年程度を想定して、そういうことを考えてくださっている。ぜひですね、生きる希望、小さな希望でもいいので、ぜひそういうものをですね、前面に出して対話をしてほしいと思っております。みんなだんだん年を取ってくるし、希望が持てない町になったら、ものすごく残念だと思うので、ぜひそこを力を入れて、私達が希望を持てる、ずっと良くして欲しいと思っております。よろしく願いいたします。

政策推進課長

はい、ありがとうございます。六郷地区ですけれども、六郷インター周辺の企業誘致を進めております。その中で、先ほどお話がありましたけれども、物流だったり製造業ということで開発業者の方が間に入って来て、企業誘致をしている段階でございまして、まだ決定はしておりませんが、決定次第皆様に、ご報告する場面があるかと思っておりますのでよろしく願いいたします。行財政改革を進めておりますけれども、先行投資をしている部分では、本町は六郷インターの企業誘致ということで、投資はしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

参加者

今日ここに来て、具体的な話がもう少しあるのかなと思って来たんですが、ここにあるのは目標を達成するための内容ですね。そういったことで、それを達成するための項目がずっと出ているのですが、その辺をもう少し具体的に、それを達成するには、やはり数値目標が大事なんです。これには全く数値目標が無くて、それを達成する、達成するって言っているのですが。これで次回また同じような会があるとしたら、私はもう参加したくない。希望が持てない。やはりそれを達成するために、などなどなどじゃなくて、もう少し、深い内容ですね。それと具体的にそれを達成するために例えば、何を減らすのか、何をどうするのか、そ

ういったところも案として出してもらえらと思っていたんですが、これでは全く前回と同じです。もう少し仕事を進めてスピードを上げていかないと、町の赤字は改善されないと思いますんで、さらに深い内容で見せて欲しいです。ぜひ次回は町民に説明できるような案を持ってきて欲しいです。いかがでしょうか。

総務課長 ありがとうございます。「など」という表現が多いということだと思います。また具体的なものをもう少し出してほしいということだと思いますので、個別な事案につきましては、それぞれの担当課が個別の施設、それから業務、事業に関わる皆様と個別にご相談を申し上げる中で、個別具体的な対応を取り、最適化を進めるとしておりますので、その辺が抽象的となっております。とはいえ進めていかないとですね、一緒にお話をしていく中で、最適化は進まないと思いますので、これからそういうことに取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

参加者 ここに課長さんが、20 何人いると思いますけれども、各課の削減策を早急に出して、令和 6 年が 4 月から始まりますよね。令和 7 年度末までに削減案を立てて、どのぐらい削減できるのか教えてください。

総務課長 ありがとうございます。令和 7 年、令和 6 年度中ということだと思いますけれども、現在は、21 の課がございます。それをこの 4 月から 2 課統合し、翌年にはさらに 2 課が統合となります。それに伴い先ほどの職員の育成とかですね、いろんなことを取り組む中で、令和 5 年と令和 6 年で現在考えているのは、7,200 万円程度の人件費の削減ができるのではないかと考えております。

参加者 足りない金額だと思いますけれども、7,200 万削減して、またこっちの方では何千万か増えるっていう可能性はないでしょうか。削減するためにお金をまた使うようなことをやめてもらいたいと思います。それと、さっき教育長さんが学校問題に関しては、まだ白紙のような答えですよ。学校の問題は、もう 3 年先 5 年先には、今より 30、40%ぐらい生徒が少なくなりますよね。今から考えていかないと、遅いですよね。確かに親御さんからの反対はあると思います。しかし、そんなことばかり言ってるようでは、行財政改革になりませんよ。お金がかからない学校だったら良いのですが、学校というのはお金がかかる。確かに少子化

で、国の方針で子供は宝みたいなこと言ってますけども、お金がかかるわけですから、なるべく器を少なくして、合理的な学校経営をしてもらわなきゃ困ります。

教育長 ありがとうございます。今後につきましては、やはり財政問題が確かにありますので、これは早急に進めていかなければならないと思います。教育の内容についても、どういうふうな教育の環境や内容が一番良いのかということも、ある意味慎重に考えなければならない問題ですので、専門家のご意見や地域の方、保護者のご意見を聞きながら、スピード感は持ちつつ、いろいろな部分を聞きながら慎重に、子供たちにとって最も良い環境になるよう取り組んでいきたいと考えています。

参加者 その意見だと、とりあえずこれやらないということですね。とりあえず1、2年は手をつけないってことですね。

教育長 先ほど申しあげましたけれども、適正規模や廃止を検討する委員会は来年度から立ち上げ始めますので、そういう意味ではすぐに取り組んでいきたいと思っておりますが、最終的にどういう形になるかということについては、今ここで即答はできませんが、取り組みはすぐに始めます。

参加者 令和7年度当初には、具体的な検討数値的なことを指針として、出してくれませんか。

教育長 先ほど申し上げましたが、ある意味慎重に進めなくてはならないものもありますので、すぐに具体的にどうこうということについては、少し時間をいただいければできないと考えております。

参加者 そんなことでは、5年先10年先も現状のままですよ。

参加者 岩間の者です。先ほども言われたので、またになるかもしれないんですけど、六郷庁舎は閉じてもらっても構わないんですが、六郷というところは地理的にとても不便なところにあります。峠を超えるので、土砂崩れとか災害時には、絶対に孤立する集落だと思っています。なので、必ず役場職員さんは六郷地区に必要です。水害かもしれないし、地震かもしれない、何が起こるかわかりませんが、災害対応してくれる職員さんがいなければ、本当に六郷地区は取り残されてしまいます。なの

で庁舎を閉めてもらっても、貸し出してもらってもかまいません。どこかに役場職員が駐留している場所を設けていただきたいと、それだけお願いしたいと思います。先々のことを考えて、もう全部なくなってしまったらもう二度と六郷に庁舎ができることはないので、必ず何かしらの連絡系統を残してもらいたいということだけお伝えしたいと思いました。よろしくをお願いします。

参加者 度々すみません。かなり意見を聞いたかと思います。六郷を忘れないで欲しい。これだけいろいろ思ってる方がいるんで、六郷はそっちのけじゃなくて、市川ファーストじゃなくて、市川三郷町は、三珠があり、六郷があり、市川があり、それぞれが意見を持っていると思います。六郷を忘れないようにお願いします。

参加者 ニードやつむぎが無くなるという話ですが、役場職員も地域の住民ですよね。つむぎやニードに家族などで行ったことはありますか。たぶん知らない町民の方もいるかと思います。町民の人にはぜひ知ってもらえるようにしてもらいたいと思います。

参加者 私、みたまの湯に行って、支配人にいろいろ聞いてきたんですけども、確かにみたまの湯は、年間20万人ぐらい入ってて、そろそろ延べの来場者が400万人ぐらいになるらしいんですけども、やっぱり向こうは経営のプロですよね。いろいろ考えて、温泉施設ってのは入浴料くらいしか入ってきませんよね。当然、つむぎの湯は入浴料しかないんです。赤字になるのはそれは当然なんですよ。入浴料の中には入湯税、税金が入ってますよね。源泉は非常にいいらしいんですけども、温度が低いために加熱してやってるっていう。その燃料費とかそういったもので、それから施設の老朽化とかそういったメンテナンスにお金を払ってるから、赤字になっている。みたまの湯は、物品を売ったり、食事をしたり、お客さんがたくさん入る努力をしているのですよね。確かに民間企業は行政と違って、いかにして儲けるかを考えて、お客さんと呼んでいるのですよ。今までは、18年間、行政の方は、儲けることは考えないで、さらに住民にサービスするっていうことも考えないで、ただ1日頑張って仕事してれば給料が入る。18年間ずっとやってきたから、こんなことになってしまう。行政は住民に対するサービス業ですよ。だからそういうことを頭に入れて、例えば庁舎に行つてね、あいさつなんて聞いたことないですよ。特に本庁の方は。それで住民が、印鑑証明でも取りに行け

ば、一番近い窓口案内されるだけですよね。以前、富士川町に行きましたら、新しい庁舎になりましたよね。そしたら、住民案内の女の子が言いましたよ。入ってくればおはようございます。今日は何の御用ですかと言っていましたよ。やっぱりそういったね、サービス業による考え方をもうちょっと職員に徹底して、住民に対するサービスを、やってもらわないと困ります。平均給与よりは、行政の職員は間違いなく高いだろうし、給料が高い分の仕事をしてください。給料下げろと言いませんよ。高くていいですよ、それだけの価値を持って、住民に対するサービスをしてください。

参加者 すみません。分からないんですけど、例えば、医療の問題が資料に入っていないのはどうお考えでしょうか。医療の施設っていうのは、みんな赤字は当たり前だと思っているんですけど、黒字になるはずがないという部分についてはどうお考えでしょうか。今の市川三郷町は病院施設に補助金をかなり出していると思うけども、その辺に対して、教えていただけますか。

町長 まず一つはですね、効率的効果的な行政運営ということで民間活力等の活用という実施方針がございます。その中で組合等との連携強化ということを推進して参ります。これには、峡南広域行政組合や峡南医療センター企業団など、いろんな一部事務組合としっかりと連携をし、そういう中で、効率的な事務事業を見据えて参ります。将来といたしましては、総務省や県などの力を借りまして、アドバイザー制度を活用し、そういった経営について評価をするという方向性でございます。

参加者 今例えば救急とか、病院に電話して、対応できないので他に行ってくださいと言われるんですよ。これってどうなんでしょうね。町として、お金出してるんですよ。町民が困っているときに助けてくれるのが公的な病院だと思うんですが、その辺りはどうお考えですか。

町長 病院経営につきましては、企業団で経営をしてございます。これについて、私どもとしてもしっかりと知識を持つ必要があるということで、アドバイザー制度を活用していくというものであります。市川三郷町として、どういうふうな支援ができるのか、支援が最適なのか、そういったことに着手をするということでございます。もちろん病院経営の他にも消防もございまして、ゴミ焼却の問題もございまして。こういった

ことについてもですね、しっかり補助をしていく、支援をしていく、その金額が妥当かどうかということはもちろんと研究をしていくという考え方ということでもあります。

参加者 そういった問題ではなくて、例えば診察してほしいです。補助金が例えば足りないから受けてくれないのか、それともやる気がないのか。そういった点について町は言えないのでしょうか。

町長 病院経営、運営につきましては、企業団のとしっかり連携をとってございますし、また逐一連携を取ってですね、意見交換などをしてございます。そういった中で考えがあれば、そこでご意見を申し上げます。

参加者 ちょっと理解に苦しむ部分があるんですけども、そのために県から副町長が来ていると思うんです。市川の場合は、たぶん甲府に行った方が近いですね、六郷の場合は遠くてなかなか行けないです。やっぱり力の強い企業団かもしれないですけど、元々は町立ですね。その辺に関しては、副町長さん、県病院などに働きかけたことなどはあるのでしょうか。例えば、救急。最近インフルエンザやコロナなどが流行っていますよね。発熱となれば、なかなか普通のところで受けてくれないんですよ。そういったことに関してはどうなんでしょうね。

副町長 聞きづらい部分があったので、間違っている部分があったら申し訳ないのですが、今のは市川三郷病院の診療についてということによろしいのでしょうか。

参加者 市川三郷病院、富士川病院でも良いですが、診察はどうなんですかということですか。逆に言ったら、県から副町長として市川三郷に来たわけじゃないですか。だから、例えば救急に関して、県に働きかけて、例えば県立中央病院が対応するとか、山梨医大が対応してくれるとかそういう話はないのでしょうか。

副町長 救急についてはですね、市町村が共同して、救急の当番を決めています、当番はいつも同じところになるわけではなく、回していると思います。当番の時は対応してもらっているのですが、まずはそちらに相談されてですね、病状によりその病院で対応できない場合は、県立中央病院とかその先山梨大学附属病院などもありますので、そういうところと調整

をして重度の方はそちらの方に搬送されるという、そういう仕組みが作られているかと思えます。

参加者 町から補助して運営しているわけですよね。受付で先生居ませんから対応できませんのでよそに行ってください。これだけの対応しかしてくれません。どこか紹介してくださいと言っても、私達は知りませんといわれますけど、それは良いのですか。副町長の言うように中央病院行ってくれ、とかそういった形で紹介するケースは一切ないと思います。

副町長 具体的な情報が把握できておりませんので、この場で病院の経営は富士川町と市川三郷町で、共同で企業団を作りまして、そちらで運営しております。私がここで会社の経営についてどうですということは申し上げられないのですが、まだ具体的なそういうお話があれば、企業団にもお話しできますので、具体的にこんなことがあったということをお伝えいただければ、企業団の方ともお話をしたいと思えます。

参加者 またそういったことがあったらお話いたします。

参加者 何年か前に町立病院を建て替える話もあったんですけど、そのままになっている気がしますがそういう話はなかったんでしょうか。企業団になったことにより、市川三郷町と富士川町が、富士川病院の共同経営をしているような形になってるんですよね。そのおかげで富士川と市川三郷町の住民をフォローするような形になってると思うんです。市川三郷病院が古くなって、立て替えるという話はなかったですか。

町長 今回の行財政改革推進計画の中では、先ほど申し上げました通り、連携強化ということで取り組ませていただいております。今ご指摘いただきました、市川三郷病院の建て替えについては、以前から課題となっておりましたが、これは今、企業団議会で議論をしている最中でございます。今後この議論が固まり次第、また皆様方にはご報告できるかと思っております。

参加者 岩間の者です。基本方針の4で、本町の行政サービスが合併後十分な見直しがされず、漫然と維持されている状況にありますと記載がありますが、私が思うに、この財政非常事態宣言を発出することになった原因、これはこれが全てじゃないかなと思っております。行政サービスの質の

向上だけではなく、基本方針 1、効率的効果的な行政運営につきましても、持続可能な財政運営につきましても、公共施設のマネジメントにつきましても、全てはこの合併後の十分な見直しがないまま、漫然と続けてきた、ここに尽きるのではないかと私は思っております。合併が約 20 年前、ここにいらっしゃる課長さん方は、当時まだ中間管理職になりたてぐらいじゃないですか。そういう状況で、役場の中ではそれほど大きな声を出す、意見も通らない、上の方々もまだまだいらっしゃるわけですから。ですから自分たちの意見を主張しても、あんまり通らない。結局はその当時の為政者と議会も含めて、それを取り巻く方々この辺が一番凶なのかなと私は思っています。大体ですね、ここに今後の取り組みという中で、職員の適正化、効率的な組織運営でこういうことが一番最初に書かれてるわけですね。これって、合併をするにあたって、合併の一番のメリットは職員の適正配置とかですよ。組織を見直し、早く統合するものは統合する、廃止するものは廃止する、それが一番先に合併してやるべきことじゃないかなと思っております。それが今まで全然できてないということは、先ほど申し上げた通り、合併以降の為政者、それからそれを監査する立場である議会によるものかと思っております。今更こういうことをとがめるわけではなくてですね、私は何にしる皆さんに期待しております。新しい皆さん、町長が変わって、新しい会社になったら、それからその中間管理職からももう少し低いところから上がってきた皆さん、大いに期待しております。これにつきまして、これからこの財政非常事態宣言を出してるわけですから、こういうのは全てですね何にしるスピード感、スピーディーに対応していただきたいです。希望のある市川三郷町をぜひ作っていただきたい、そんなふうに思っております。これをお願いいたします。よろしく申し上げます。

参加者 このあと、市川と三珠の説明会が終了したら、何か作るんですか。またこういった資料を作るんですか。ただ参考の意見として、えらい課長さんが、30 人近くただ意見を聞いただけで終わってしまうのか。20 日までやって何かそれをまとめたものを作るんですか。それで、6 年の最初には何か具体的なことを発表するんですか。どうですか、課長さん。

総務課長 今おっしゃっていただいたこの 3 日間の説明会をした時にいろいろ意見があつて、何かそのあとに新しいものを作るのかっていうことでよろしいでしょうか。

参加者 | それと、具体的に何から始めますか。現状、改善策をいつから。今はまだ紙の段階ですよね。何をやってるってわけでもない。あんまり見えてこない。

総務課長 | それを含めて現在お示しをさせていただいて令和6年の4月にはこういうふうになりますよというところも計画に示させていただいております。それについては、それが実現できるように今現在やってる段階でございます。

参加者 | 具体的にいつ発表するんですか。それをこういうふうにしますよと。

総務課長 | 例えば組織の再編であれば、条例等でお話をさせていただく内容でありますので、3月議会に上程させていただきますし、ものによりけりの対応になろうかと思えます。

(5) 閉会 午後9時20分